

堤防整備や橋梁対策等の河川整備により、豪雨による被害を大幅に軽減する



国土交通省 江戸川河川事務所
中川・綾瀬川流域自治体



東京都足立区、葛飾区
埼玉県春日部市、草加市、越谷市、八潮市、三郷市、吉川市、北葛飾郡松伏町



中川・綾瀬川
直轄河川改修事業など

河川整備の状況



河道の掘削



堤防整備



排水機場の整備

事業費

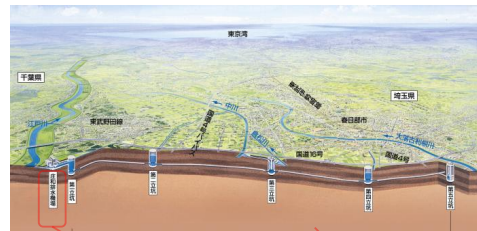
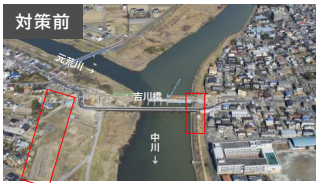
約3,300億円(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)44億円) ※首都圏外郭放水路の整備費を含む

事業の背景(地域の課題)

中川・綾瀬川流域は、昭和30年代以降、急速に市街化が進展し、平成27年には市街化率が53%に達しており、また、ほぼ全域が標高20m以下の低平地で、中川の河床勾配は全川で概ね約1/4,000と緩勾配であるため、洪水時には河川水位が堤内地の地盤より高くなることから、流域内が浸水しやすく、過去から浸水被害が繰り返し発生してきました。これまでの度重なる浸水被害、気候変動に伴う水害の発生リスクの増大という新たな課題等を踏まえ、これまでの総合治水対策を生かしながら、将来に渡って安全な流域の実現を目指して、令和6年3月に特定都市河川・流域に指定し、関係者が協働して流域治水の本格的実践に取り組んでいます。

事業の内容

中川・綾瀬川流域では、平成4年度から平成18年度に首都圏外郭放水路の整備を行い、さらに、近年は5か年加速化対策などにより堤防整備や橋梁対策等の河川整備を進めてきました。



首都圏外郭放水路(調圧水槽) シールドトンネル

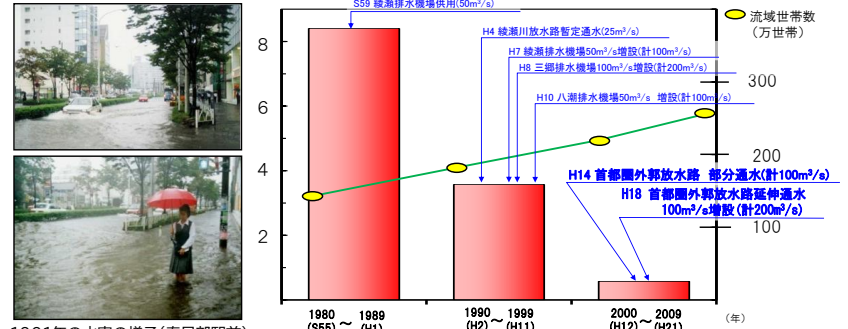


堤防整備・橋梁対策の整備事例(中川 吉川橋付近)

効果

■ 浸水被害の軽減

中川・綾瀬川流域では、過去から水害による被害が頻発していましたが、首都圏外郭放水路をはじめとする河川整備により浸水被害が大きく軽減、1980年代は10年間で8万戸を超える浸水被害が、近年では1/10以下に減少しました。また、平成8年台風17号では約2,900戸の浸水被害が発生しましたが、同等の降雨を記録した令和6年台風10号では、河川整備の効果により、宅地等への浸水被害は生じませんでした。

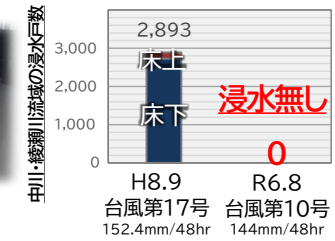


【平常時】



首都圏外郭放水路 第1立坑から調圧水槽への流入状況

【令和6年台風10号】



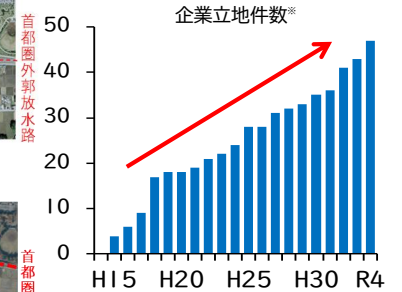
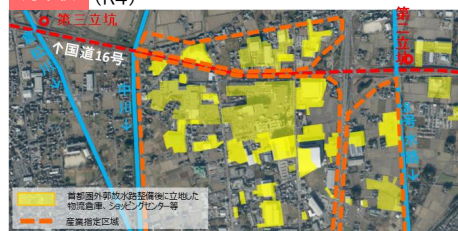
■ 水害被害の軽減による企業誘致

首都圏外郭放水路等の整備により水害が軽減したことから、春日部市では、2003年度から「産業指定区域」を指定して、企業誘致を推進しています。「水害に強い都市基盤」を積極的に広報し、企業を誘致・物流倉庫やショッピングセンター等が立地しています。

対策前 (H12)



対策後 (R4)



* 春日部市が指定した産業指定区域のうち、下柳地区に立地した企業件数(春日部市調べ)

令和2年撮影(江戸川河川事務所)

(1)	1
人命・財産の被害最小化	激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策
(2)	
交通・ライフラインの維持	

2
インフラの老朽化対策

(1)	3
施策のデジタル化	国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進
(2)	
災害関連情報の高度化	